

# 岩本工業株式会社



社員同士が協力しあって課題の解決へ  
コミュニケーションの活発化をその手始めに



風通しのいい社風づくりで  
働きがいのある職場を



川畑勝吾製造部長

「働き方改革を進めるため、社内のコミュニケーションをよくすることを意識しています」。そう話すのは岩本工業(株)の川畑勝吾製造部長だ。人間関係が良好であれば、職場の雰囲気

がよくなるだけでなく、社員同士が課題を共有し、その解決に向かって一体感をもって進むことが可能になる。例えば、ネック工程の改善などに協力し合って取り組むことで生産性が上がり、結果として残業削減などにつながる。また、円滑なコミュニケーションは働きがいのある職場づくりにも重要な役割を果

たし、離職率の低下などにも効果を発揮している。

具体的な取り組みの一つが師弟制度だ。これは技能に長けた先輩社員が新入社員とペアになり、3年間、マンツーマンで指導する制度だ。このほかにも、現場の改善や5S、安全対策を進めるサークル活動を展開したり、社員同士の趣味のサークルに補助金を出したりと取り組みは実に多彩だ。一杯やりながら意見や不満を打ち明けてもらおうと、社長夫妻と社員数名が参加して居酒屋で開く交流会も、風通しのいい社風づくりに生かされている。

### CAD/CAM 導入で プログラミング作業を省力化

同社は、無人運転設備を導入して夜間勤務をなくするなど、職場環境の改善にも熱心だ。旋盤や小型工作機械については約10年前からCAD/CAMを導入。これによっ

### 課題

- 1 生産性向上や職場環境の改善を推進するベースには、コミュニケーションが不可欠
- 2 働き方改革関連法の施行に伴い、2019年から年5日の有給休暇の取得が義務化に
- 3 技術職を志望する女性が増え、製造現場でも女性が働きやすい環境づくりが必要となった

### 解決

- 1 師弟制度など多彩な取り組みを通じて社内のコミュニケーションを活発化
- 2 全社一斉の有給休暇取得奨励日を設け、すべての社員が確実に取得できるようにした
- 3 男性よりも小柄で非力な女性も働きやすいよう台車を導入するなど現場を改善した

て工作機械を制御するために必要な数値データを作成、入力する手間が大幅に削減された。今後は無人運転設備など、大型の設備にもCAD/CAMを活用し、さらに効率アップを図る計画だ。

また、年5日の年次有給休暇の取得に向けては2019年からお盆や年末年始の休暇の前後に全社一斉の有給休暇取得奨励日を設け、すべての社員が確実に取得できるようにした。2020年はさらに2日増やして年7日を有給休暇取得奨励日に設定。吉岡充信管理部マネージャーは「これまで以上に長い連続休暇が取れるようになるので、いろいろな使い方ができるのでは」と話す。



吉岡充信管理部マネージャー

### 急増する女性社員に合わせ 職場環境や制度を見直し

8年ほど前からは本格的に女性技術者の採用をスタート。男性に比べ、小柄で力のない女性でも働きやすいように台車を新たに導入したり、作業台の高さや作業場のレイアウトを見直したりするなど、改善を進めている。



### DATA

## 岩本工業株式会社



工作機械、ロボット、航空機等の部品、ユニットの開発、製造を手がける。全工程を内製化した一貫生産体制により高品質・低コスト・短納期を実現する。本社は白山市。1963年5月設立。資本金3,000万円。代表者は岩本博之。従業員数84名。